



俳句を楽しむ会

夏季作品

優秀作発表

三つの和(なごみ)シリーズ

和(なごみ)くろ
和(なごみ)
和(なごみ)抹茶入り



お茶の持つ味と香りを
最大限に引きだし
時間をかけ
ていねいに仕上げました

菱和園のお茶で
おもてなし



茶を愛でし母の追憶雲の峰

(都 留) 磯村桂川

お茶をきらいという人は聞いたことがない。そんな中でも、特にお茶を愛したお母さん。人間誰をも大好きで、お茶の功德で、誰からも愛された。夏の間空に午後ともなれば青つ峰雲が爽快。母を偲んで追憶数多。

自販機の緑茶ごとりと秋麗

(天 月) 浅川幹雄

自動販売機の普及により、飲料など冷暖それぞれ自由自在。疲労防止に気分転換にと多用。その飲料の緑を愛し、一本の緑茶を所望。突然ごとりと大きな音。辺りは春のような暖らかさ。天を仰いで飲み干すのだ。

「寄ってけし」訛り懐かし新茶出ず

(天 月) 湯沢正枝

「寄ってけし」は甲州の方言。「家へ寄って休んで下さい」の意。抑揚をつけて人なづかい。時は新茶の出来る頃。「お茶でも汲んで、ゆつくりお話ししましょうよ」あたたかいお誘い。ありがたい。

冷茶手に亡母に似た人よく笑う

(甲 府) 三枝春香

今年の夏は猛暑続き、冷たくしたお茶もさぞ貴重されたであろう。そんな冷茶を汲みながらの女性同士の会話。賑やかな中に、特に高らかな笑い声たてる人は、亡きお母さんにそっくり。私もあやかりたいお母さんの笑顔。

新茶揉む祈りの如き仕草かな

(富士吉田) 田辺義樹

お茶は摘んだ葉を蒸籠で蒸し、焙烙であぶりながら丹念に手で揉みあげる。その揉みぶりが、神仏に合掌し、掌をすり合わせるお祈りによく似ている。かくして心をこめたおいしいお茶ができる。

佳作

誕生日母在すこと新茶買ふ
(上野原 原田 敏夫)

汗拭きつ老いとしち温きお茶が好き
(天 月) 小林 秀子

ふるさとの道は変わらずお茶の花
(上野原 原田 花穂)

耳遠き同士新茶に領けり
(笛 吹 浅川和多留)

老僧の冷茶を飲みつ太鼓打つ
(身 延 小林 利典)

一服の煎茶の香る今朝の秋
(天 月) 湯沢 正典

茶のお陰米寿を越えて敬老日
(天 月) 渡辺 正子

夏果てていよいよお茶の出番来る
(甲 府 高木ふく子)

岩清水ひとりに余る湯茶冷す
(上野原 天野 昭正)

暑き日に暑き茶を飲む旨さ知り
(甲 斐 諸寄 澄江)

冷茶汲み二人句会の毀譽褒貶
(甲 府 三枝 風樹)

茶碗置き技を誉めあう菊の緑
(甲 府 村上 郁夫)

次回作品募集のご案内

● 次の応募締切は十二月三十一日(金)消印有効になります。

● テーマは、番茶、焙じ茶、昆布茶、梅茶など、寒さに向かう中で、家族や隣人仲間と暖かく楽しめる日本茶・紅茶の俳句を募集します。

● 応募頂いた作品の中から優秀な作品には素敵なお茶をプレゼントを用意しています。発表は年四回新聞にて発表します。

● 選者は県内で俳句活動を行われている渡辺柳風先生にお願いいたします。(先生には選考にあたり表現上の添削もお願いしてあります。ご了承下さい)

● ハガキで菱和園本店まで郵送していただくか、左記直売店までお持ちください。お一人様何点でも応募できます。● 応募いただいた作品は未発表の物に限ります。また、応募作品は返却いたしません。● 作品には応募者の住所、氏名、年齢、電話番号を記入ください。ペンネームでも応募される方はペンネームの下に(本名)を括弧で囲んでください。

味と香りの「ミニニケーション」



本店 山梨県甲府市太田町四一七
TEL・0555(26)51075

直売店 ■太田町本店 ■ジョイ店 ■湯村店
■山交店 ■リバーシティ店

ご応募いただく個人情報は入選作品のプレゼント発送に利用します。また、菱和園からの季節の知らせにも利用させていただきます。また、必要のない方は、その旨応募時のハガキ裏面に記入願います。この目的以外での個人情報利用は行いません。